

漁業經濟学会短信

No. 17
71.10

第十八回漁業經濟学会

大会開催される

第十八回大会は千葉県勝浦の「鳴海荘」において、五月二十日・二十一日の両日にわたり開かれた。大会は千葉県在住の会員諸氏、とくに渡辺栄一・田中光男の両氏、大会を企画された高山隆三・大海原宏の両先生などのなみなみならぬ御努力、周到な準備と、県庁・千葉県漁連等の諸団体の協力を得てきわめて盛会であつた。シンポジウム「日本漁業の經濟構造」をめぐるつても、新たな問題提起がなされ、今後の漁業經濟研究の發展のために有益であつた。シンポジウム要旨は、学会誌上または短信においても漸次とりあげていきたいと考えている。

大会日程は次のごとくであつた。
大会第一日・一般報告

1. 千葉県内湾養殖業の變貌
千葉県漁連
内田 一三
 2. 戦後における下関の旋網漁業「小資本」の形成過程
東京大学農学部
植田 欣次
 3. 下関市におけるウニ加工業の諸問題
水産大学校
中込 暢彦
 4. 東南アジアにおける合併漁業の性格
高知短大
中井 昭
 5. 漁獲運動の変化と個別經營の変動
鹿児島大学
堀口 健治
 6. 漁民層の生産力基盤について
東京大学農学部
広吉 勝治
 7. マグロ流通機構の変化
長崎大学
吉木 武一
 8. 小売市場と競争条件
埼玉大学
秋谷 重男
 9. 基地經濟下の沖繩水産業
九州大学
中楯 興
- 大会第二日・シンポジウム
テーマ「日本漁業の經濟構造」

1. 漁業構造の理論的把握をめぐつて
同志社大学
志村 賢男
 2. 戦後漁業の構造変化―統計的把握―
水産庁
浅田 陽治
 3. 日本漁業構造把握に関する問題整理
慶応大学
高山 隆三
- 討論
○ 総会
××× ××× ×××
- 次年度の大会については金沢周辺で六月初旬開催の予定。テーマはなお未定であるが、本年のテーマを継承した課題を設定することも一案として考えられる。積極的な御意見をお寄せください。
- 末尾になつたが本年の漁業經濟学会賞は、浦城普一著「真珠の經濟的研究」(東京大学出版会、四五年三月発行)に授与された。このような秀れた労作がうみ出されたことを会員諸氏とともに喜びたい。

(事務局)

第十八回大会雜感

吉 木 武 一

第一八回大会は「日本漁業の經濟構造」というスケールの大きなシンポジウムを曲りなりにも消化した。

大会参加者は大なり小なり、自からの研究領域・水準からこのテーマへの理論的関心をいだいたはずである。そしてシンポジウムの基軸をなす志村報告は期待にたがわず内容に満ち、示唆に富むものであつた。

それはわたしの理解では、現段階における漁業資本・小生産の分解が提起する構造問題の解明に焦点がすえられ、そしてその理論的帰着として、漁業における資本蓄積の進行と現行漁業制度との矛盾の深化、船頭制雇用の解体によつて再生産をおびやかされるにいたつた中小漁業資本の存立条件、漁家層の全般的な不安定化のなかであられる生産投資の特質などへの一連の卓抜な論及がなされたと思う。

が反面、報告ではこうした分解の現局面を漁業構造にどのように体系的に位置づけて評価するか、ということに力点がおかれ、日本資本主義の現段階における漁業の構造

的特質への理論展開が必ずしも十分ではなく、また漁業独占の蓄積条件変化とそれが漁業構造に及ぼす影響へのアプローチがなされなかつたきらいがある。

しかしいづれにせよ、この報告は透徹した認識が光彩を放つ類いのものであつたことは否定のできないところであつて、その理論水準の高さはいかばかり分解論に依拠した漁業構造把握の理論的有効性に拮抗しうる討論がほとんどなされなかつたことによつて逆に証明されているといつてよい。

それにしても討論のボルテージはあまりにも低かつた。シンポジウムをみのり豊かにすべき争論がなく、さりとて報告者の論点へ向けて斬り込むような意見・質問の類いも出なかつた。これによつてわたしたちは今後、日本漁業の構造把握への共同責任を負う破目におちいつたといえよう。問題はそれがこれから、それぞれの研究領域でどのような理論的深化をとげるかにある。それはさておき、今回のシンポジウムはわが学会の理論水準を映す鏡であつたという意味で記憶されるべきであろう。

そういえば今次大会はまこと田舎芝居じみていたけれども、わが学会が地方巡業を

はじめてから、かなりの時が経過している。京都を皮切りに沼津、津、勝浦と流転するうち、いつしかこうしたドサ回りに対するわたしたちの抵抗感覚はしだいに鈍くなつてい有的是あるまいか。地方での興行はたしかに在京理事の負担を軽減する効果があるけれども、そしてそれは必要なことだけれども、存外、出費がかさむものであり、わが学会の貧しい財政ではとうていカバーできないがゆえに、それは外部団体への資金依存を大きくする。したがつてそれは自己資金でまかなわねばならぬ学会運営の原則からのいつ脱を意味する。

かくてわが学会は他人の懐をあてにする度合いに応じて風化を強めるにいたつた。その証拠に事務局では個人報告者の頭数を揃えるのに難渋している。名乗りをあげる人が少いので事務局はかり出しにばかり、その網にかかつた者は怪しげな内容をひつさげてやつて来る始末である。最近、若手の報告者がかなり目立つようになつてはいるけれども、それとて大会の沈滞を打ち破るほどの起爆力をもちえるまでに成長している訳ではない。そしてこれは近年の会誌発行ペースのいちじるしい鈍化と表裏をなし

ている。

こうした学会の状況のなかで大会を企画し運営せねばならぬ関係者の労苦は大変なものであると思う。実際、学会の雑用を押しつけられたばかりに永年に亘つて研究活動を制約され、そのわずらわしさ、つまらなさに耐えねばならないのである。

学会はこうした人たちの犠牲と忍耐の上にかろうじて成り立っていることを知らねばならない。関係者の熱意にほだされ、あるいはその努力に敬意を表するために大会に参加する会員もあるだろうと思う。

もちろん学問的な触発を受けにくる人もいるにちがいないが、レセプションという名の景品付大会に魅せられる人も少くあるまい。でなければ孤立化を強いる独占状況から逃避して、互いにその弱さをちくり合うためにひと時のなれ合いの場を求めて集まるのだ。

大会が研鑽の場としてよりも遊びの場として機能する面が強いゆえんである。こうした現象は人によつては学会のサロン化と映るらしいが、それが末期の楽園という意味なら的を射ているように思う。

(長崎大学水産学部)

(I) 昭和45年度 会計報告

一般会計

収入の部

科 目	予 算	決 算
会 費	700,000 円	584,600 円
ボーナス・カンパ	-	92,500
会 誌 売 上	20,000	22,000
寄 付 金	30,000	-
広 告 料	10,000	10,000
雑 収 入	-	-
前 期 繰 越	163,767	163,767
計	923,767	872,867

支出の部

科 目	決 算	決 算
会誌印刷費	600,000 円	566,995 円
通信発送費	100,000	57,980
事務局費	100,000	128,004
会 議 費	20,000	5,710
大会経費	50,000	9,200
負担金	15,000	14,896
雑 費	5,000	-
次 期 繰 越	33,767	90,082
計	923,767	872,867

(II) 昭和46年度 予算案

一般会計

収入の部

科 目	前年度予算	本年度予算
会 費	700,000 円	650,000 円
会 誌 売 上	20,000	50,000
寄 付 金	30,000	200,000
広 告 料	10,000	10,000
雑 収 入	-	-
前 期 繰 越	163,767	90,082
計	923,767	1,000,082

支出の部

科 目	前年度予算	本年度予算
会誌印刷費	600,000 円	670,000 円
通信発送費	100,000	100,000
事務局費	100,000	100,000
会 議 費	20,000	15,000
大会経費	50,000	100,000
負担金	15,000	15,000
雑 費	5,000	-
次 期 繰 越	33,767	82
計	923,767	1,000,082

学会初参加評論

平 磯 真

「激動する七十年代」という言葉がある。この言葉は、私にとつてなにか空々しいような、七十年安保改定期をひかえて全国各地で湧き起つた学園紛争の高まりから観念的に言われた言葉と思われた。それは、当時の私自身が、あくまで大学というインチキな場に身を沈め、現実社会（大学機構をも含めて）を観念的にしか捉えられなかつたことがその原因のようである。

その後、現実社会に身を置いて、足であるき、耳目を傾けると現実社会は激動している。漁業においてもしかりである。このようなきとき漁業経済学会が「シンボ……日本漁業の経済構造」を行うと聞いたとき、漁業経済学会を意義のあるものだと考えようとした。

しかし、学会を終えた今では、やはり、既成のものに期待するのは誤りであるというような気がしている。シンポジウムの時間があらかじめ設定（短時間）されており、現実の問題が、こま切りに提起されただけであつた。

しかも会場が千葉県という沿岸漁民の生活が激動させられている地であつたにもかかわらずである。内湾においては、海岸線八十キロにわたつて漁場が奪われ、漁村がまつたくけされた千葉県である。外房においても、漁民に対しては漁港といつわりつ、政府の開発計画に合わせて大規模な港（将来は商業港に転換）を大原、館山、勝浦等に建設している、その勝浦が会場であつたにもかかわらずである。

政府の棄民政策に沿つた構造改善事業や水協法の改悪などが問題にされなかつたのはどうしたことか。金融、流通等を通じて権力の末端機構としての役割を果たしている漁協について問題にならなかつたのが不思議である。

このような普遍的な現実の問題をぬきにして一部の特殊な漁村を取りあげて、「沿岸漁業を発展させることが、独占資本と対決することである」といつたところでなんの意味もないし、逆に政府に利用されるだけではないだろうか。

ましてや「日本漁業消滅論」などにいたつては何も言つてないのと同じであり、むしろ資本漁業の海外進出や国内労働者の搾

取実態を隠蔽する役割を果たすものである。一体漁業資本が利潤を獲得する漁場はどこにあるというのか。

漁業の中でも合理化が進められ、資本の蓄積が進んでいると言われている。大洋と日魯の共同事業などが起つている。その過程で、これまで漁業労働者の先頭に立つて闘い、「労使協調」などをウソぶいている組合より高い労働条件を獲得してきた労働組合に対する弾圧、大量の首切り、労働強化が行われている。じつに巧妙にである。

紙面の都合上、乱暴に綴つたが、前記の問題を抜きに漁民や漁船員の問題を云々することは、漁業資本ひいては日本独占資本の御用学者としての役割を果たすことになる。学会の中でそのような問題が意識されなかつたことは、我々が漁民や漁船員に対しては、無力であるところか、実は犯罪的な役割を果たしていることになるのではないだろうか。

昭和45年度会計および46年度予算について

(Ⅲ) 財 産 目 録

特 別 会 計	100,000円
現 金	30,461
預 金	59,621
計	190,082

昭和46年3月31日
漁業経済学会

昭和四十五年度会計報告及び予算は別表のごとくであるが、前期まで事務局を担当してきた高山氏の尽力によつて大幅な改善がなされた。今後も会費収入を軸として運営する、その方針を踏襲していきたい。会員諸氏のご協力を切にお願いする次第である。

出 版 案 内

○「東京都内湾漁業興亡史」

(三八〇〇円)

問合わせ先・港区芝一丁十一番十二東京都漁業協同組合連合会内同興亡史刊行会(四四三三三七五一)

のり養殖業の発祥地として沿岸漁業の代表的海区であつた、東京都内湾漁業の創始から現在にいたる三百年の発達過程を、漁業の実態・史実を豊富に収録して記述したもの。

○「水産加工団地形成調査報告書」

一・二部

一青森市の水産加工業の問題点と対策一

(割引価格六〇〇円・送料一一五円)

購入希望者は青森市水産課(青森市安方町)まで直接申込んでください。

学会誌原稿申込み

事務局

漁業経済研究第十九巻の年間発行計画は、次のとおりです。発行が遅れがちですので、鋭意、遅れを取り戻したいと考えています。投稿予定を同封の葉書でご連絡ください。会員各位の研究成果をお寄せくださるようお願いいたします。とくに第十八回大会で報告された方々が、その内容を整理され、投稿していただければ幸いです。

原稿不切 第一号 四六年十二月末

第二号 四七年二月半ば

第三・四合併号 五月末

新役員の選出および 事務局の移転

大会後の総会で新役員が以下のように選出された。また、学会事務局が慶応大学から東京水産大学へ移ることになった。このたび役員から退かれたが、従来事務局を運営し、学会のために多くの労力を尽された高山隆三・大海原宏の両氏に厚く感謝したい。

会長	岡本 清造	日本大学
理事	秋谷 重男	埼玉大学
	秋山 博一	全漁連
	浅田 陽治	水産庁
	池田 均	北海道労研
	石川 賢広	水産庁
	岩崎 繁野	日本労研
	植田 欣次	東京大学
	小野征一郎	東京水産大学
	大島 襄二	関西学院大学
	柿本 典昭	金沢大学
	菊地 晃	農林省
	倉田 享	近畿大学
	庄司 東助	東北水研
	鈴木 旭	北海道大学

監事

中井 昭	高知短大
中込 暢彦	水産大学校
西村 章作	淡水研
二野瓶徳夫	国会図書館
長谷川 彰	南西水研
原 多計志	鹿児島大学
平沢 豊	東京水産大学
宮城雄太郎	漁村文化協会
吉木 武一	長崎大学
和田 勉	長野中学
浅野 長光	日本トロール捕鯨漁船保険組合
岡 伯明	水産経営技術研究所

(アイウエオ順・敬称略)

新入会員

小豆野 実	長崎県漁連
中居 裕	政治経済研究所
三宅 哲夫	漁船保険中央会